

平成22年 4月30日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2011
 課題番号：19520211
 研究課題名（和文） アジアにおけるシェイクスピア上演研究のための批評言語の構築に関する研究
 研究課題名（英文） A study for the construction of critical idioms for the study of Shakespeare performance in Asia
 研究代表者 南 隆太（MINAMI RYUTA）
 愛知教育大学・教育学部・教授
 研究者番号：60247575

研究代表者の専門分野：英文学

科研費の分科・細目：文学・英米英語圏文学

キーワード：シェイクスピア、上演批評、比較演劇、アジア演劇

1. 研究計画の概要

本研究は、アジア圏を中心としたシェイクスピア上演研究を行う者の対話を可能にする共通基盤としての批評言語の確立の可能性について考えるものである。主に英米の研究者による、あるいは英米の研究者を対象にした批評研究の在り方を問い直し、既存のシェイクスピア上演批評の枠組みにとらわれない研究の在り方をアジアの研究者の視点から再考するため、中国、韓国、台湾、マレーシア等のアジア地域の研究者とのネットワークを形成し、恒常的な連携を行いながら「アジアにおけるシェイクスピア上演研究」の新しい枠組みの構築を目指す。

2. 研究の進捗状況

過去3年間にわたり、中国、韓国、台湾で開催された国際学会に出席し研究発表を行うとともに、中国、台湾、韓国、マレーシア、シンガポール、インドの研究者との意見交換を繰り返し行い、その成果の一部は論文集として出版し、現在も出版準備中である。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している

理由 国立台湾大学の Beatrice Bi-qi Lei 氏、インドのデリー大学の Poonam Trivedi 氏、中国出身で現在連合王国のリーズ大学の Ruru Li 氏、韓国慶北大学の Younglim Han 氏、マラヤ大学の Chee Seng Lim 氏、筑波大学の吉原ゆかり氏など、アジア諸国の研究者と意見交換を重ね論文集を出版したほか、現在本研究の成果をまとめた研究代表者（南）を責任編集者とするアジアのシェイクスピア翻案集を出版準備中である。

4. 今後の研究の推進方策

（1）2010年11月に本研究プロジェクトに関して意見交換を行ってきた研究者を招聘して研究集会を開催し、これまで確立したネットワークを活かした形で、批評言語の確立の可能性とその実情を具体的に論じる。
 （2）本年9月をめぐりにアジア圏で上演されたシェイクスピア翻案作品の英語版アンソロジー（全5巻）の初稿を完成する。このアンソロジーでは、個々の作品について、その上演を論じた文章を翻案に付し、文字テキストとしてのシェイクスピア翻案とその上演テキストとの差異を明確に示し、上演批評の新しい可能性について個別に検討する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計6件）

MINAMI RYUTA, “Is No Shakespeare in Noh Shakespeare?: Re-/Mis-Shaping Shakespeare on the Noh Stage” (27 November, 2009), ‘Shakespeare in Culture: Fourth Conference of the NTU Shakespeare Forum,’ 26-28 November, 2009, National Taiwan University.

MINAMI RYUTA, “Re-defining the ‘Foreign’ of ‘Foreign Shakespeares’ in Asia: Ninagawa Yukio’s *Kabuki Twelfth Night* and its Audience” (24 October, 2009), International Conference on ‘Shakespeare in Asia’ October 23-24, 2009,

Sookmyoung Women's University, Seoul,
Korea.

MINAMI RYUTA, “ ‘ Re-placing
Shakespeares on the Japanese Stage ” (11
September, 2008)Panel 7: Resistance in
regional Shakespearean canons,
Renderings: Shakespeare across Continents.
University of Nottingham Ningbo, China,
10-12th September 2008

〔図書〕(計2件)

Re-Playing Shakespeare in Asia, edited
by Poonam Trivedi and Minami Ryuta (New
York; Routledge, 2010)共編著 75-94

*Shakespeare in Asia: Contemporary
Performance*, edited by Dennis Kennedy and
Yong Li Lan (Cambridge University Press,
2010)共著 109-131

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕2件

愛知芸術文化センター、日本シェイクスピア協会共催 一般向けシンポジウム「シェイクスピア・イン・アジア」のコーディネイトおよび司会 2007年10月11日(金曜日) 愛知芸術文化センター 12F アートスペース
参加者: Alex Huang (ペンシルバニア大学准教授) Yong Li Lan (国立シンガポール大学准教授) Robin Loon (国立シンガポール大学助教授) 吉原ゆかり (筑波大学准教授)

愛知芸術文化センター、日本シェイクスピア協会共催 展示「ヴィジュアル・シェイクスピア」のコーディネイト 2007年10月2日~11日 愛知芸術文化センター B2 アートプラザ